

3年「それでも、言葉を」
鷺田さんの言葉への視点を
活かしてコラムを書く

指導時期 2 学期
指導時間 4 時間

教科書
P.172-179

関連 学習指導書3下・P160

この指導案について

- 「それでも、言葉を」の文章を、単なる内容理解にとどめず、筆者・鷺田さんの言葉に対する視点や姿勢を学ぶ教材として活用する。そのために、鷺田さんの視点を参考にして、自分たちでも「折々のことば」を探し、コラムを書くという活動へと発展させる。
- 教材文だけでなく、新聞、書籍、インターネット、日常生活など幅広い場面から言葉を見つめ直し、言葉への感性を研ぎ澄ますことができるよう配慮したい。

指導目標と評価

観点	指導目標	評価規準と評価方法
知識・技能	自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。 [知・技 (3) オ]	自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(ノート)
思考・判断・表現	文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。 [C読む (1) エ]	「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(ノート・コラムの文章)
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]	自分の心に響いた言葉を、書籍などから探して選び、紹介する活動を通して、言葉や社会、人間について粘り強く自分の意見をまとめ、これまでの学習をふまえた理解や考えを、発表や感想交流によって共有しようとしている。(ノート・コラムの文章・感想交流)

学習の流れ		は、本指導案の重点となる時間
時間	主な学習活動	学習指示・指導上の留意点など
1	活動全体の学習課題を確認し、鷺田さんの「折々のことば」や教材文を読む。 ① 鷺田さんが書いた「折々のことば」(朝日新聞紙上で連載)をいくつか読み、気に入った言葉を紹介し合う。 ② 「折々のことば」を執筆する鷺田さんの、言葉に対する姿勢を考えながら、「それでも、言葉を」を読む。	- ここでは、自分の心に響いた言葉を紹介するコラムを書く学習に取り組むことを把握させる。 - 教科書P177の例をはじめ、できるだけたくさん紹介できるとよい。新聞の切り抜きを集めてもよいし、「私の折々のことばコンテスト」サイト上でも幾つかの記事を閲覧できる。 - 次の問いを参考に考えさせるとよい。 - 鷺田さんは言葉についてどう考えているのか。 - 鷺田さんはどのような言葉を選ぼうとしているのか。
2 3	自分の心に響く言葉を探し、「折々のことば」を書く。 ③ 鷺田さんの言葉への視点を示すキーワードを出し合い、その意味を整理する。 ④ 鷺田さんの視点を参考に、自分でも心に響いた言葉を探していく。 ⑤ 「なぜその言葉が心に響いたのか」を簡単にノートにメモする。 ⑥ 「折々のことば」を書く。実際の「折々のことば」と同じく、200字程度で言葉を絞り込んでコラムを書く。	- 鷺田さんならではの、言葉への感覚が読み取れるキーワードを出し合い、意味を考察させる。 例)「言葉の肌理」「言葉の背景にある体温や手応え」「言葉の二極化」など。 - 書籍、インターネット、好きな歌の歌詞、日常生活で家族や友人から聞いた言葉などから自由に選ばせる。 - 鷺田さんの言葉への視点を活かして、自分の心に響いた言葉を一つ選ぶように伝える。 「私の折々のことばコンテスト」サイトに掲載されている鷺田さんの「『ことば』との出会いで自己発見を」を併せて紹介するとよい。 - コラムは次の観点でまとめさせる。 選んだ言葉／出典(誰の言葉か、どこで見たか)／その言葉を選んだ理由／自分にとってその言葉がどのような意味をもつか。
4	お互いが書いた「折々のことば」を読み合う。 ⑦ グループで紹介し合い、感想交流する。 ⑧ 学習を振り返る。	- Padlet^{*1}やロイロノート^{*2}などのツールを使うと、オンライン上でお互いのコラムを簡単に読み合ったり、コメントを付け合ったりすることができる。 - 次の振り返りの視点を参考にさせるとよい。 【知】 言葉を選ぶときにどのような点を意識したか。 【思】 他の方の「折々のことば」を読んで気づいたことや、はっとさせられたことは何か。 【態】 今後、言葉とどう向き合っていきたいか。

*1 オンラインで使える掲示板。文字や写真、動画などを貼り付けることができる。
*2 オンライン上でカードや思考ツールを作成・共有できる学習支援ソフト。
PadletはWallwisher, Inc.の商標です。
ロイロノートは株式会社LoiLoの商標です。